

# 災害時における情報共有ツールの増設について（案）

令和元年度災害医療運営連絡会第1回専門部会において、情報共有ツールの増設について提案し、まずは庁内で試用することとしていた。については、途中経過を報告し、今後の方向性について協議されたい。

### 1 目的

現在想定している災害時情報伝達手段に、グループで書き込みができるようなツールを加え、災害時にさらに円滑に情報共有ができるよう環境整備する。

### 2 現状と課題

(1) 現状  
 情報共有・伝達手段の複数化が望ましいという観点から、現在、区と医療機関とにおける災害時の情報共有ツールとしては、以下のものを整えている。  
 ①固定電話 ②携帯電話 ③防災無線 ④衛星携帯電話 ⑤FAX  
 ⑥広域災害救急医療情報システム（EMIS） ⑦Facebook  
 <情報共有ツールの使用可否>

	①	②※1	③	④	⑤	⑥※2	⑦
区	○	○	○	○	○	○	○
災害医療CO（4）	○	○	-	△	-	△	-
医療救護所（避難拠点）	○	○	○	-	○	-	-
拠点病院（2）	○	○	○	○	○	○	-
連携医療機関（6）	○	○	○	○	○	○	-
支援医療機関（11）	○	○	-	-	○	△	-
専門医療拠点病院（3）	○	○	-	○	○	○	-
透析医療機関（11）	○	○	-	○	○	-	△※3
患者搬送団体（30）	○	○	-	-	-	-	-

※1 携帯電話については、すべての事業者の電話番号を把握できていない。  
 ※2 EMISについては、全病院が使用できるが、双方向の情報伝達は難しい。  
 ※3 Facebookのグループでの連絡は、一部の透析医療機関に限る。

(2) 課題  
 超急性期において医療需要が増すなか、電話回線等のパンクや、不安定な衛星携帯電話回線によって、区と医療機関が円滑に連絡を取り合えないことが想定される。また、固定電話や防災無線に関しては、災害時の混乱の中、医療機関の対応が困難となる可能性があることや口伝での伝達ミスがあるとのことご意見も頂戴している。  
 ついては、少なくとも全災害時医療機関が情報を伝達・共有できるツールが必要であると考え。



### 3 要件

目的を適えるため、以下の機能が整えられていることが望ましい。

- ① 直感的に操作ができること。また操作方法に馴染みがあること。
- ② グループでのチャットが可能であること。
- ③ 画像やファイルの共有できること。
- ④ 誰がメッセージを読んだか確認できること。
- ⑤ アンケート機能があること。
- ⑥ セキュリティが担保されていること。
- ⑦ 音声またはビデオ通話ができること。



### 4 情報共有ツールの増設（案）

固定電話や携帯電話の回線がパンクした際に備え、インターネット回線で情報を伝達できるツールの導入を検討する。形態としては、グループでチャットができるようなものを想定している。  
 機能要件を満たしている候補は、下表のとおりである。

要件	LoGo チャット	LINE WORKS
①操作性	○（LINE と類似）	○（LINE と同等）
②チャット機能	○	○
③画像等共有	△（動画の投稿不可）	○
④既読通知	○	○
⑤アンケート機能	○	○
⑥セキュリティ	◎	○
⑦通話機能	-	○
⑧費用	440 円／月（1～500 アカウント）	396 円／月

### 5 依頼事項

- (1) 専門部会終了後、専門部会委員でLoGo チャットまたはLINE WORKS のいずれかのアプリケーションをインストールし、アカウントを作成していただきたい。
- (2) 専門部会委員および事務局でグループを作成し、操作性や有効性について検証されたい。  
 ※照会の回答や検討事項の進捗については、上記のアプリケーションで行う。  
 ※第3回専門部会で使用感や有効性について、協議を行いたい。